



作品左上から
 ●高山辰雄《海》1973年 個人蔵
 ●岩崎巴人《母子像》1959年 富山県水墨美術館
 ●横山操《川》1956年 福井県立美術館
 ●平川敏夫《雪后閑庭》1985/1990年 豊橋市美術館
 ●小泉淳作《涛声 男鹿半島入道岬》1997年 東京オペラシティアートギャラリー
 ●松尾敏男《玄皎想》2015年
 ●加山又造《一九八四・東京》1984年 東京国立近代美術館
 ●下保昭《称名暮雪》1998年 砺波市美術館
 ©Masao Sugita 2019/JAA1900189

富山県水墨美術館開館 20 周年記念

墨画 × 革命

戦後日本画の新たな地平

- | | | | |
|------|-------|------|------|
| 松林桂月 | 近藤浩一路 | 榊原紫峰 | 児玉希望 |
| 丸木位里 | 篁 牛人 | 小松 均 | 東山魁夷 |
| 高山辰雄 | 岩崎巴人 | 横山 操 | 平川敏夫 |
| 小泉淳作 | 松尾敏男 | 加山又造 | 下保 昭 |
- (作家生年順)

「日本画」という言葉は近代以降に生まれたものです。近世（幕末）までの日本の絵画でこれにあたる言葉は「やまと絵（和画）」で、意外なようですが、いわゆる水墨画は、その対義語の「唐絵（漢画）」と認識されつつ、より公的な性格を帯びていました。その双方を継承した近代日本画は、明治以後の近代国家にふさわしく、西洋美術を吸収した新たな伝統主義美術（西洋美術の直移植でもなく伝統美術の守旧的な復興でもない）を模索します。

そして墨と膠による東洋画の一員である事実を忘れたような顔をして成立した「国民的絵画」としての日本画像は、第二次世界大戦の敗戦後、「日本画滅亡論」に見られるように大きく揺らぎました。それはまさに危機的状況でしたが、国家主義の退潮したこの時代にあえて「墨」の表現の可能性を模索することは、近代のさまざまな制約から解放された表現の地平を拓く、革命的なパラダイムシフトだったのです。

本展では、戦後に制作された墨画の表現を概観し、戦後日本画の中での墨画の性格、水墨画の伝統の受容/変容の状況を、さまざまなアプローチを見せた画家たちの群像により紹介します。

2019年 11月15日(金)～2020年 1月13日(月・休)

観覧料 一般 900(700)円 大学生 450(350)円 前売一般 700円
 ※()内は 20人以上の団体料金です。※この料金で常設展も観覧できます。
 ※小・中・高校等の児童・生徒及びこれらに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方は観覧無料です。
【前売券取扱所】 富山県水墨美術館、富山県美術館、アーツナビ(富山県民会館、富山県教育文化会館、富山県高岡文化ホール、新川文化ホール)
 ※前売券の発売は 11月14日(木)までです。
会期中の休館日 月曜日(1/13を除く)、年末年始(12/29～1/3)
会場 富山県水墨美術館 展示室 1・2
開館時間 午前 9:30～午後 6:00 入室は午後 5:30 まで
常設展示 近代水墨画の系譜/下保昭作品室
館内施設 茶室「墨光庵」(立礼席、薄茶とお菓子) カフェ「北斗」
 ミュージアムショップ「風花」 ※展示室以外はフリースペース(入場無料)です。

交通のご案内
 ●富山駅南口から [市内電車] 大学前行「富山トヨベツ本社前(五福末広町)」下車、徒歩約 10 分 [ぐるっと BUS] ②乗場から北西周りルート「水墨美術館」下車すぐ [地鉄バス] ③乗場から小杉・高岡方面行「五福末広町」下車、徒歩約 10 分 / ⑦乗場から四方・呉羽山老人センター・石坂・北代循環行「細中」下車、徒歩約 10 分 [タクシー] 約 10 分
 ●富山空港から [タクシー] 約 25 分 ●北陸自動車道富山 IC・富山西 IC から [自動車] 約 20 分
 ●駐車場: 乗用車 165 台、バス 7 台 ※ご利用は無料です。

次回予告 篠田桃紅 とどめぬもの 墨のいろ 心のかたち 2020年 2月7日(金)～3月22日(日)

関連行事

- 講演会「水墨の話 すみからすみまで」
 講師：古田亮氏 (美術家・東京藝術大学大学美術館准教授)
 日時：12月14日(土) 午後2時～
 会場：映像ホール ※申込不要
- ミュージアムコンサート「二胡の音色にのせて」
 出演：李彩霞 (Li Saika)
 日時：12月7日(土) 午後2時～(約60分)
 会場：エントランスホール ※申込不要
- 学芸員によるギャラリートーク
 日時：11月23日(土)、12月21日(土)、1月11日(土)
 ※いずれも会場は展示室1・2、時間は午後2時～
 ※申込不要・展覧会観覧券が必要です



富山県水墨美術館 水墨美術館 検索
 〒930-0887 富山市五福 777
 TEL(076)431-3719 FAX(076)431-3720
<http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm>